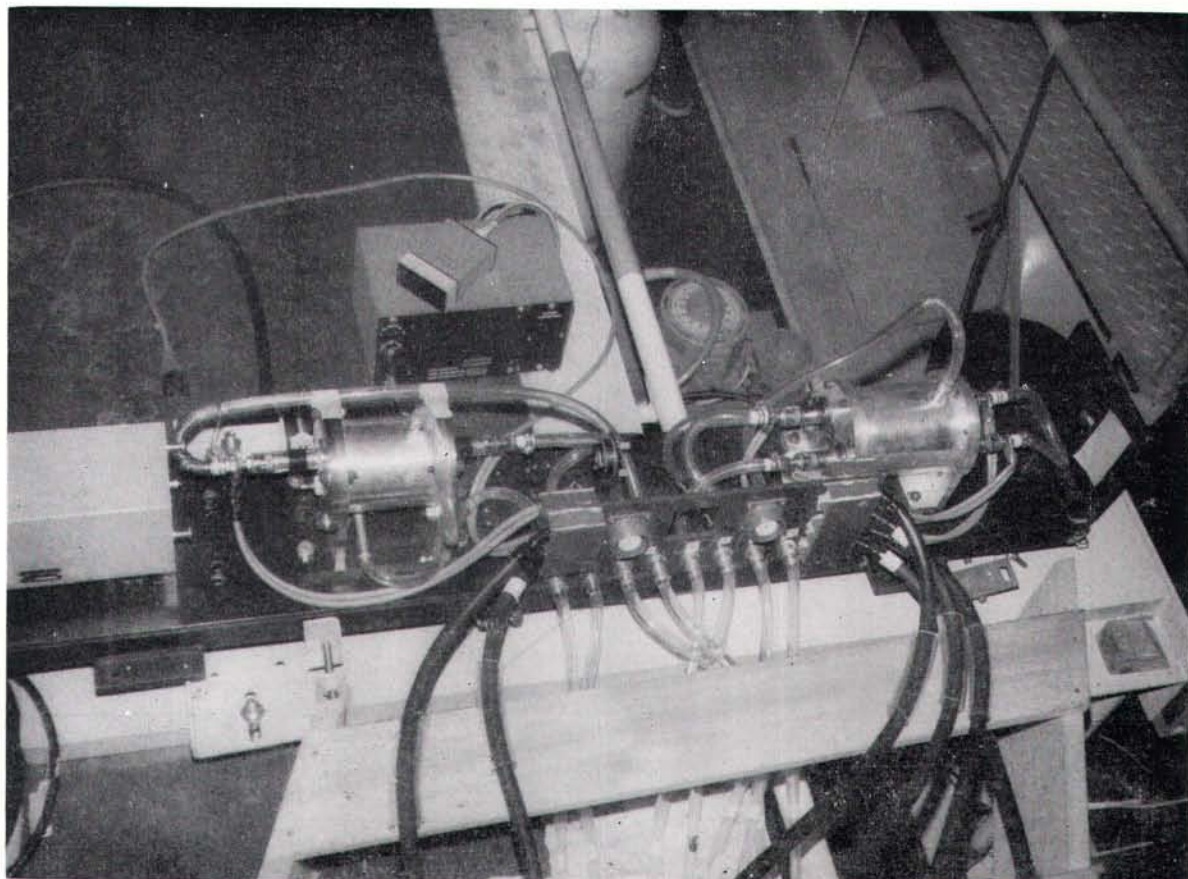


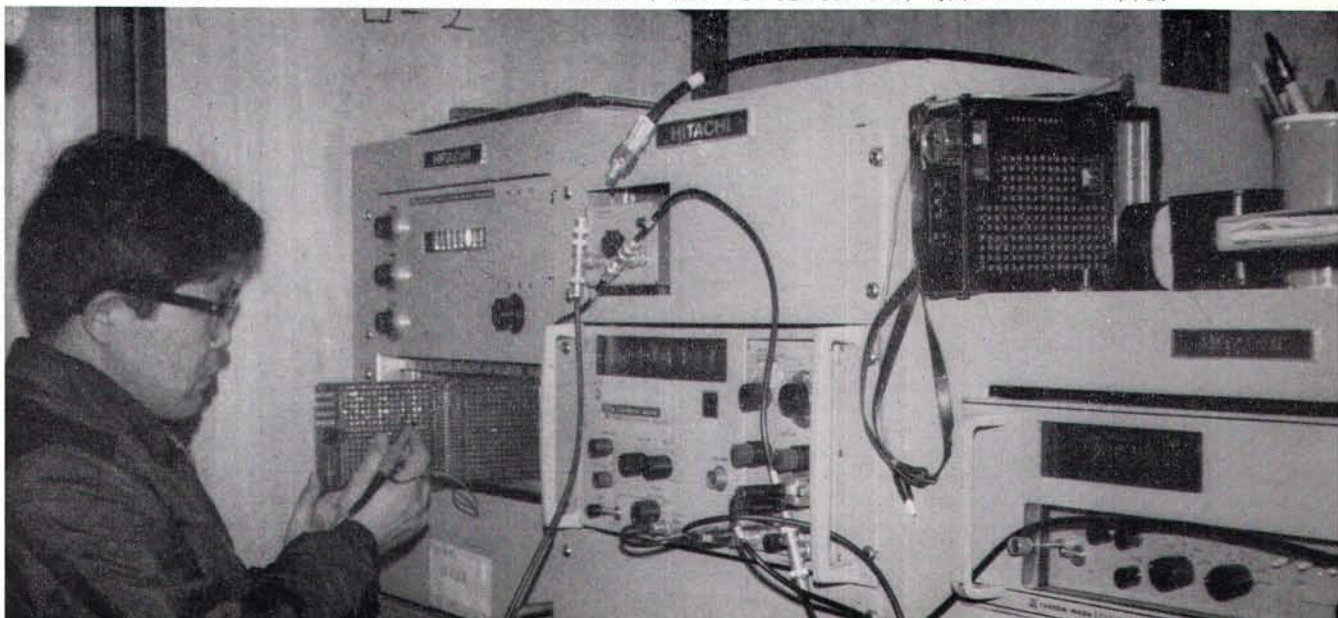
# レーザー光による月測距実験

レーザー光を使って月までの距離を測定する実験が、岡山天体物理観測所の188センチ反射鏡を使って、昭和46年1月22～23日、2月15～19日の未明に、東京天文台と日立製作所の共同で行なわれた。ここに載せた写真はそのときの装置の一部である。

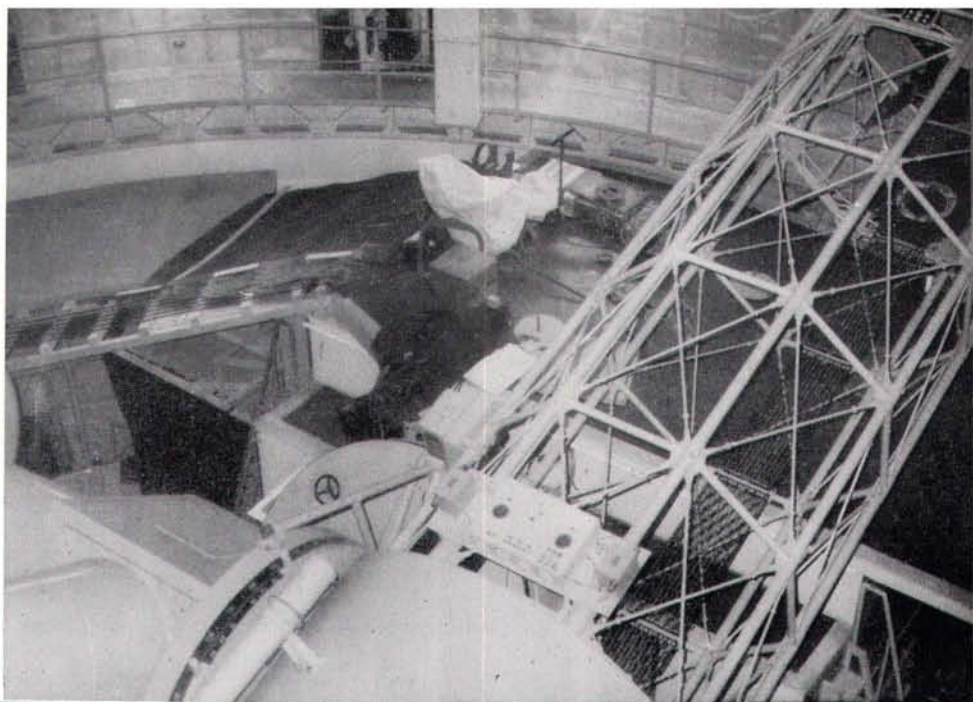


▲ レーザー光発振・増幅装置 左側の円筒形の部分で、ルビー・レーザー光が発振され、右側の同じ形のところで増幅されて、右側の方へ送り出される。左端の箱の内部には、ポッケルス効果を使ったQスイッチがあり、非常に速く光をスイッチする装置である。

▼ 計数装置 北ピアのそばに作られた小屋の内部にあり、戻ってきた光が受かると、時間がカウンターに出る。



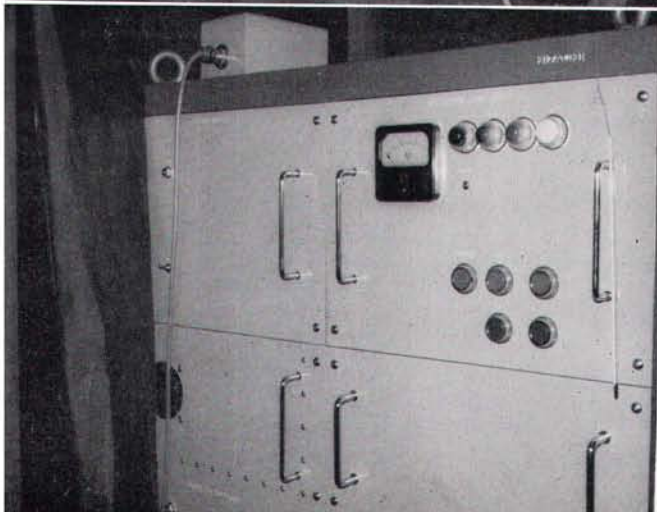
▶ 188 センチ反射鏡のクーデ室の屋上に設置されたレーザー装置。極軸の南端からクーデ式光学系にレーザー光を送り込まれる



188 センチ反射鏡の北ピア。小屋の内部には計数装置がある

電源装置

◀ 主鏡の横につくられたガイド装置



# A 型 特 異 星 の ス ペ ク ト ル

HD 134793

HD 126515

HR 5355

HR 8240

HD 192913

HD 9393

HR 1732

$\alpha^2$ CVn

HR 8349

Sr II 4215 →  
Eu II 4205 →

Cr II 4171 →  
Sr II 4161 →  
(+Zr II)

Sr II 4078 →

← H $\gamma$

← Si II 4200  
+ Fe III

← Mn II 4137  
← Si II 4128-31

← H $\delta$

← Mn I 4030-31

← Si II 3992  
← Hg II 3984

← H $\epsilon$ +Ca II (H)

← Si II 3955

← Ca II (K)  
← Eu II 3930

Sr-Cr-Eu

Cr-Sr

Eu-Cr

Sr-Cr-Si

Si, 4012

Si-Cr

Si

Si-Hg-Cr-Eu

Hg-Mn

